

ドンコ *Odontobutis obscura* (Temminck et Schlegel)

【選定理由】

県内における本種の生息域は限られており、現存する個体群も決して大きくないと推測され、今後実効性のある保全対策を実施しない限り、本種の絶滅リスクは小さくないと考えられる。

【形態】

体長 15cm。頭部が大きく横幅があり、胴が短い。口は大きく、唇が厚い。うちわのような形の胸鰭が大きく発達し、腹鰭は左右に分離し、吸盤状にはなっていない。褐色の体色で、背鰭と尾鰭の基底に黒い斑紋がある。全身に大柄な暗斑がある。繁殖期の雄は全身が黒っぽくなる。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊川、矢作川、庄内川を含む県内の主要な水系。

【国内の分布】

愛知県・新潟県以西の本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、韓国。

【生息地の環境／生態的特性】

砂礫底のある中小規模河川の緩流部を好む。湖沼、水田周辺の用排水路にも生息する。純淡水魚であり、海との行き来はしない。大きめの礫や水草等を隠れ場所とし、強いなわばりを持つ。主に夜行性で、魚類、水生昆虫の他に、甲殻類等を捕食する。4～7月に産卵する。雄が石の下に巣を作り、誘引された雌は巣の天井に卵を産み、立ち去る。雄はその後も卵を孵化するまで保護する。孵化後の仔魚は他のハゼ類と異なり、浮遊生活期を経ずに、即座に底生生活に入る。

【現在の生息状況／減少の要因】

愛知県では 1960 年代には広範囲に分布する普通種だったが、現在ではほとんど姿を見なくなってしまった。河川工事により礫河床が失われ、産卵環境が損なわれてしまったことが本種減少の最大要因であろう。

【保全上の留意点】

県内における本種の生息水域は非常に限られているものと推測される。まずは、これらの生息場所をこれ以上損なわないこと、産卵に必要な適度な大きさの礫を主体とする河床を復元することが重要である。

【特記事項】

ドンコに限らず、観賞魚店等で入手した個体を意図的・非意図的に野外に放逐する行為が横行しているものと推測される。現に関東地方にも本種の分布が拡大しており、問題視されている。

【関連文献】

- 岩田明久, 2001. ドンコ. 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海 (編), 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚 改訂版, pp.558-560. 山と溪谷社, 東京.
- 向井貴彦・西田 睦, 2003. 日本産ドンコにおけるミトコンドリア DNA の系統と関東地方への人為移植の分子的証拠. 魚類学雑誌, 50(1): 71-76.

(谷口義則)